setoyaki style book

セトリエ

瀬戸からはじまるやきもの新生活。

SETO
YAKI×MONO

第八号

セトリエ 第八号

発行 / 瀬戸焼振興協会 〒489-8701 愛知県瀬戸市追分町64-1 TEL：0561-88-2651
E-mail.kogyoshinko@city.seto.lg.jp Web.http://www.setoyakishinkokyokai.jp
企画・編集 / 日笠真理・岩田舞海 ‖ 写真 / カメイヒロカタ ‖ 意匠 / studio05 ‖ 印刷 / 株式会社暁デザイン事務所 2015.11

撮影協力：スタジオK2 横田和憲さん
写真手前：石膏型／中：原型／奥：製品

進化する「型」のかたち

瀬戸を陶磁器の一大産地へと
発展させてきた技術のひとつが、
石膏型に生地を流し込み成型する
鋳込み製法による「型もの」。
瀬戸の製陶業は分業制が発達し、
原型、成型、鋳込みの工程も
各々専門の職人が手がけることで
高い技術と生産力を誇ってきた。
「型もの」といっても個性は様々。
形状や厚み、彫りによる装飾など
デザイン面での自由さを活かし、
そのフォルムは進化し続けている。

welcome
to
SETO
YAKI：つくる
×
つかう：MONO

くもりを洗う「栃渋（とちしぶ）」の不思議

窯場に置かれた大きな木桶。中には黒ずんだ液体が溜められています。秋、赤津の里山に自生するトチやコナラ（どんぐり）などの木から落ちた実の笠＝へた部分を拾い集め、水に浸けておくと「栃渋」が抽出され、これが織部焼には欠かせない“魔法の水”に。

窯から出したままの織部釉には、釉薬に薄い膜がかかったような「くもり」があります。それをこの栃渋に2日ほど浸しておくと…あら不思議！ 膜は取れ、見違えるように鮮やかな緑色に。さらに細かい貫入（ひび模様）に渋が染み込むことで、より味わい深い風合いが醸し出されます。「膜取り」「渋抜き」と呼ばれるこのひと手間こそ、織部釉の美しさを引き出す伝承の技。身近な自然をあますところなく活かす、先人の知恵と工夫に脱帽です。

撮影協力：
喜多窯 霞仙　加藤裕重さん

「象嵌壷」竹内真吾さん／フラワーアレンジメント『hana&zakka irodori』澤田舞子さん

象嵌（ぞうがん）と植物　土の彩りを象る（かたど）

焼締めに色を埋め込む。

陶芸の装飾のひとつに、素地となる土に別の色土をはめこんで焼く「象嵌（ぞうがん）」という技法がある。金工や木工など、陶芸以外の工芸にも広く用いられる。

陶芸家・竹内真吾（たけうち・しんご）さんの象嵌作品は、一度目にしたら記憶から離れないほど、圧倒的な個性と存在感にあふれている。作陶のベースとなっているのは、須恵器（すえき）。煤（すす）けた鈍色を帯びた陶肌は、きめ細かく焼き締められ、量感のある曲面には象嵌の稜線が描かれていく。

土が生みだす有機的なうねりには、みずみずしさを内包した多肉植物やがよく似合う。響鳴し合うことで熱を帯びたような色彩が浮かび上がる、そんな不思議も個の力のなせる技だろうか。

竹内 真吾 さん

自由な表現を求めて独自の象嵌を試みる。

瀬戸に生まれ、窯屋や製陶工場に囲まれて育った竹内さん。一旦は会社勤めをするものの、自分には合わないと知人の紹介で愛知県立窯業高等技術専門校に通うようになる。

「周りは意識の高い同期生ばかり。瀬戸には身近に陶芸家として活躍する先輩も多く、ずいぶん刺激を受けましたね」。

専門校修了後は薪窯を持つ窯元で技術の研鑽に努め、その後二代加藤春鼎（しゅんてい）氏に師事。一九八二年瀬戸市内にて独立築窯した。

「修行時代から多くの織部や黄瀬戸をつくってきましたが、独立したら他がやらない表現を自由にやってみようと。もともと好きだった須恵器をイメージして、黒灰がかった色合いの作品づくりに傾いていきました」。

独立した年に、第29回日本伝統工芸展に初入選。焼締め陶＝炻器（せっき）をベースに試行錯誤し、やがて象嵌による装飾技法に辿り着く。一九八五年以降、〈炭化象嵌〉と称した作品を通して独学で技を究めていった。

「象嵌というと、生地が乾く前に彫りを入れ、色土を埋め込んでから素焼きをしますが、僕の場合は、素焼きの後に象嵌を施します。その方がベースの土も荒れず、綺麗に仕上がるんです」。

作品づくりは、まず先に縮小サイズのマケット（模型）をつくり、全体の造形や手順を確認してから取りかかる。

「基本はドーナツのように紐状に粘土を積み上げ、少しずつ固めてはまた積み上げ、その過程で形を自由につくり出していきます。この壷は、土練機から出てきた棒状の土を見て面白い！と思って。とにかく試していろいろやってみる。それが自然と表現につながっていくんです」。

瀬戸の花屋さんとして、身近な暮らしに彩りを。

今回フラワーアレンジメントを手がけたのは、銀座通り商店街の近くにある花屋『irodori』の澤田舞子さん。

「この壷を見て、多肉植物しかない！と思い、エケベリアを大輪の花に見立て仕上げました。瀬戸では作家さんと出会う機会も多いので、一輪挿しや花器などに合わせたお花の提案もしていきたいですね」。

個性が出会い、溶けあい、新たな命が吹き込まれるのも、つくり手同士にとっては楽しみなサプライズとなるに違いない。

hana&zakka irodori
店主 澤田 舞子 さん

愛知県瀬戸市栄町24-3
TEL/FAX：0561-65-5328
営業時間：10:00～18:00
定休日：火曜日
http://irodoriflowers.com

竹内真吾 陶房

愛知県瀬戸市白坂町83
TEL：0561-84-5908
http://www.river.sannet.ne.jp/bamboo

陶房内にはたくさんのマケット（模型）が。

長い夜の長皿二彩

冬が近づくにつれ、夜は深々と。
１年で最も夜が長くなる、冬至。
それを境に再び昼間がのび始める。
ふたつの時間がつながりうつろう
大人のためのくつろぎの一皿は、
ふたつの表情で気分をチェンジ。
宵の頃、恋人との食事の始まりは、
甘い色が溶けあう乳白色の長皿に
色とりどりのアミューズで演出。
夜も更けたら、シードルを注いで、
氷裂貫入の滴にまどろみながら
映画をついもう１本、夜ふかし。

ひとつの器を、料理やシーンにあわせて何通りにも使ってみると、新しい表情が見えてきます。例えば、長皿。アペリティフ（食前酒）の一皿は、ヴィヴィッドなローズピンクのリネンでロマンティックに（上段）。またある時は、トレーとしてカップを重ねて気軽に（下段）。実力派の長皿を、今宵は少しあそんでみては？

ー器の案内人　日笠真理ー

淡彩釉角長皿（上下段）
氷裂貫入カップ（下段）
※青磁釉などに表れる氷の裂け目のように見える大きめの貫入（ひび模様）。亀甲貫入。

柳本 美帆 さん
Atelier bellevoile
（アトリエ ベルヴォワル）
http://bellevoile.jp

ヨセトコ茶会 第八回

カメラ女子目線で選ぶ瀬戸焼コーディネート

―カメラやスマホを手に、テーブルの上の料理と器を熱心に撮る女性たち。今や自分の料理を自分で撮ってブログやSNS等に発信していく時代。プロとして料理やテーブルウェアのスタイリング・撮影までを手がける神谷美保さんは、そんな"カメラ女子"たちに料理写真の指導もしている。

神谷：「いかに美味しそうに見せるか」をテーマに、まず最初にレクチャーをするのが、器との関係ですね。直接料理に触れるものであり、"目で温度を伝える"ことができるのが、器。あったかいものはあったかそうに、冷たい物は涼やかに見せることで、美味しさを視覚的に伝えることができます。土もの、ガラスなどの素材、色、厚さ・薄さも、器選びの大切なポイントかな。

―神谷さんが、赤津の窯元・三峰園窯 加藤達伸さんと出会ったのは、7年ほど前。料理家、器コーディネーターといったつかい手と、瀬戸焼の窯元やつくり手による勉強会がきっかけだった。

加藤：窯元がつかい手の声を聞く機会って、意外に少ないんです。ここ赤津では、毎年春と秋に『赤津 窯の里めぐり』が開催されるようになったことで、直接足を運んでもらえる機会も生まれました。神谷さんも何度かうちに来てオーダーをしてくださったり、昨年は器と料理の写真撮影でご一緒しました。

―つくり手とつかい手、それをつなぐのが、コーディネーターやスタイリスト。数ある産地、やきものがある中で、いかに瀬戸焼の魅力を伝え、ふだんの生活の中で使ってもらえるようアピールしていくか。そんな課題に、常に積極的に向き合い、ものづくりに取り組んできた加藤さん。

スタイリング／神谷美保　撮影／カメイヒロカタ

加藤：シンプルなカフェ風の食器が人気でも、赤津の窯元としては、やっぱり他ではできない織部や黄瀬戸の釉薬の色合いと手づくりの味わいを強みとしていきたい。それには形や見せ方、提案力で勝負するしかないと思っています。以前なら花鳥風月を絵付けした長皿でも、あえて描き込まず季節感を限定しない。サンマ皿としてではなく、使い回せるサイズや幅を考え出すなど、つかい手側の意見を聞きながら自分なりの工夫と技をデザインに込めています。

神谷：加藤さんは、伝統的な瀬戸焼を伝承しつつも、現代の市場やつかい手の感性に敏感に反応し、一緒に創り上げていく姿勢を大切にしてくださるので、使う側もニーズを伝えやすいんです。

―神谷さんが加藤さんの織部シリーズを初めて見た時、それまでの織部のイメージが一変したとか。美濃焼ともまた違う特有の深み、色味があり、形やサイズ感もふだん使いしやすいのが魅力だという。

神谷：その特色を活かせるようなフード選び・盛り付けを考え、撮影ではその器の持つ美しさを際立たせるよう心がけています。美味しそうに撮るコツは…好きなお菓子やいつも作っている料理をのせてみて、感じたまま撮ってみることかな。

加藤：そうですね。まずは何かひとつ、お気に入りを手にして使ってみてください。その実感からさらにひろがって、瀬戸焼の魅力を感じてもらえたらうれしいです。

三峰園窯
愛知県瀬戸市窯元町123　0561-82-3256

べっぴんプラス株式会社／CHIE'S KITCHEN
愛知県名古屋市東区泉2-1-28 Viare Storia 1A,3B　052-935-6610

瀬戸焼ノート

いろいろ織部図鑑

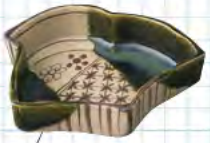
「織部焼」と聞いてまず思い浮かぶのが、織部釉（銅緑釉）が掛けられた緑青色のやきもの。【総織部】【青織部】のことを指す場合が多いが、他にも釉薬・施文・胎土の違いによるいろいろな色や風合いの“織部”がある。千利休の弟子で、桃山文化を彩った茶人「古田織部」にちなみ、彼が好んで使った“斬新なやきもの”を総称して、「織部焼」と呼ぶようになった。現在は、伝統的な柄のものの他、つくり手の遊び心あふれる現代的なデザインのものなど、食卓に彩りを添える器として親しまれている。

総織部

織部釉が器の全体にかけられたもの。一般的には無文様あるいは釉下に線彫や印判で文様をつけたり、透かし彫りなどの工夫をしたものが多い。

鳴海織部

赤い土と白い土を継ぎ合わせ、赤い土の部分に白化粧で文様を描き、鉄系顔料で線描する。白い土の部分には銅緑釉を掛ける。



青織部

器の一部に織部釉、残りの部分に長石釉を掛け分け、釉下に鉄系顔料で文様を描いたもの。

織部黒

黒釉が器の全体を包み、文様のないもの。織部黒はひずみのある香茶碗が代表的。

黒織部

黒釉を掛ける時に窓と呼ばれる間をあけ、そこに鉄絵で描かれた「窓絵」と呼ばれる文様があるもの。その上に長石釉または灰釉を掛けて焼く。

赤織部

鉄分の多い赤土に、白化粧土（白泥または白釉ともいう）と鉄系顔料の組み合わせで文様が描かれたもの。織部釉が少々流し掛けられたものもある。

協力：瀬戸蔵セラミックプラザ

セトリエ 字引き

焼締め（やきしめ・やきじめ）

釉薬を施さずに、約1,200～1,300度の高温で焼成した陶器。焼き締まることで水を通さないのが特徴。

素焼き（すやき）

成型した素地を乾燥させ、無釉のまま低い焼成温度で焼いた陶器や磁器。または本焼きする前に釉薬をかけずに焼き固める方法。

鋳込み（いこみ）

石膏で型を製作し、その型に泥漿（でいしょう：泥状にした粘土）を流し込んで成型する技法。ガバ鋳込み（排泥鋳込みともいう）と圧力鋳込みがある。

SETO MONO CAFÉ

vol.1 鬱蒼（うっそう）カフェ

愛知県瀬戸市広之田町506
TEL：090-1748-9055
営業時間：11時～17時
金・土・日のみ営業　P5台

瀬戸焼はもちろん、瀬戸に息づく「MONO＝物・者（ひと）」が交流するお店で、おいしい食事やティータイムを楽しめたら…セトリエでは、そんな目線でくつろげるとっておきスポットをご紹介していきます。

第一回は品野地区にある『鬱蒼カフェ』さん。ご主人の渡辺真也さんが営む『鬱蒼農園』のすぐ横に、奥様がカフェをオープン。有機栽培・無農薬で育てられた野菜を毎日、畑からそのままカフェへ！そんなカラダに贅沢なランチやスイーツがココロも和ませてくれます。奥のフローリングスペースでは、小さな子どもと一緒でもゆったり座れるところがうれしいですね。

ステンドグラス・ランプはNijiiro Lamp（ニジイロランプ）さん、テーブルはせと組子細工の玄翁屋（げんのうや）さんの作品など。瀬戸の作家やクリエイターが集うサロン的存在でもあります。

プレート類は瀬戸の『工房じぐろ』山内香寿美さんにオーダー。とても気に入っています。

オーナー　渡辺 理加 さん

2015年4月にオープン。ごま味噌だれが美味しい『鬱蒼玄米五平餅』やカレーランチが人気。

オトコのウツワ

「抹茶茶碗を愛でる」
土田 勝巳 さん
（瀬戸市在住／会社員）

「雰囲気」がいいんです。

瀬戸で陶芸を学び、現在も趣味で作陶を楽しむという土田さん。二十代の頃から器をコレクション、茶道も嗜む好事家の男子です。お持ちいただいた初代加藤春鼎氏作の抹茶茶碗は、「たまたま立ち寄った店で目に留まったんですが、見るからに雰囲気が良く、手に取った感じも良かった」とのこと。瀬戸の作家では、波多野正典さんなどの作品もお気に入りだそうです。

「抹茶茶碗は茶道を心得てつくられているかどうかで判断しますが、それ以外は織部や黄瀬戸というカテゴリーより“なぜ良いのかよくわからないけれど、なんとなく雰囲気に惹かれる”という感じのものを選びますね」。

写真左：名人と謳われた初代加藤春鼎（しゅんてい）氏（1885-1961）作の鼠志野（ねずみしの）抹茶茶碗。
写真右：瀬戸市制40周年記念品・加藤清之氏作。瀬戸市の木「くろがねもち」があしらわれている。

Setoreet セトリート 想像ひろがる セラミックアート

瀬戸には、様々な表現で個性あふれる作品づくりに取り組む陶芸家がいます。つくり手の思いや創造力を、自由に感じて想像を楽しむ。「やきもの」という手法を最大限に生かしたセラミックアートをご紹介します。

セトリエ動物園 赤津の路地で見つけたフクロウくん。日本では「福来郎」として縁起物、夜目が利くのでご近所の見張り番?!

"丸＝縁"が創作テーマ

KATOU KATSUTOSHI

加藤 勝利 さん

生宝陶苑

約65㎝の大きな丸をベースにした作品〈太古の奏〉(写真左上)は、2013年日展入選作品。赤土に鉄釉を吹きつけ焼成した"ドラム"の中央は、弦楽器を弾くバチを象った文様で抜かれている。「これは古代につながる穴、覗くと昔の音が聞こえてくる…そんな時の積み重ねと人の縁に感謝を込めて、制作しています」と加藤さん。瀬戸市美術展、日展での入選多数。作品は、陶房に併設されたギャラリー展示の他、古川美術館爲三郎記念館(名古屋市)にも所蔵されている。

愛知県瀬戸市品野町8-151 0561-41-0457
10:00～17:00 (12:00～13:30 お昼休み) 休 日・祝日

トモダチにしたい！「ロボ陶器」

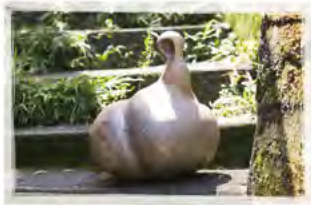
YONEYAMA MASASHI

米山 雅司 さん

米山窯

瀬戸の昔ながらの窯元風情を残す陶房。扉を開けると「やあ」とにっこり待ち受けてくれそうな陶器製のロボットは、米山さんのオリジナルキャラクター。瀬戸で産出される土を使い、「泥打ち」という技法で表面にドベ(泥状の粘土)を叩きつけて表情をつくる。「ヨロイヲマトウ」という作品名のごとく、連結部など本当に鎧を着せてあるかのような仕上がり。個展やクラフト展、品野陶磁器センターの瀬戸陶芸協会常設ギャラリーで出会うことができる。

愛知県瀬戸市東権現町16 0561-82-5769



行き場のない思い、涙の化石

IWABUCHI KOUJI

岩渕 幸治 さん

factory Bucth

オーディオからは懐かしいROCK、その脇にエレキギター。インテリアコーディネーターを経て陶芸家を志したという岩渕さんの工房そのものが、アーティスティックな"factory"だ。亀井幸一氏に師事し、朝日陶芸展や日本陶芸展等多数の入選・受賞経歴を持つ。戦争や災害がもたらす悲哀、抱えきれないほどの大きな涙のしずく。大きなスプーンでもすくいきれず、胸を刺すほどの哀しみが形を変えフォークに…。そんな繊細な思いと「風化する記憶」をテーマに、作品を創り続ける。

愛知県瀬戸市萩殿町3-84 090-7028-0859

心の、耳の奥でうごめく思いを表現

TANAKA TOMOMI

田中 知美 さん

花びら、あるいは薄衣を幾層にも重ねたような襞(ひだ)、襞…。それが波のようにうねり、寡黙な声をひらかせる。作家活動の登竜門となった女流陶芸展(2005年)の受賞作品名は〈心の襞〉。「土を指や板を使って押し潰して薄くしていくのが面白く、それを重ねていった表情がとても美しかったんです」と田中さん。手びねりで形成したベースに、薄い襞を一枚一枚貼り付けていく丹精極まる手法だ。「自分が新しい生命体を創る」という思いが、繊細な作品にダイナミズムを生みだしている。

http://tanakatomomi.com

訪問ご希望の際は、まず事前にお電話やメールで確認を。「セトリエ見ました」と一言どうぞ♪

右：作品を持ち寄り、実際にプロに料理を盛りつけてもらう研修も。
中：代表の宮本茂利（みやもと・もり）さん。「新道（しんどう）工房」（愛知県瀬戸市）
左：「基 向付展」東京・丸善日本橋店

瀬戸がかわる・瀬戸をかえる

うつわ勉強会「基」motoi

瀬戸市を拠点に、年齢・立場・ジャンルの違う作家が「うつわを基本から見つめ直そう」と集まり、研究と実践を重ねるうつわ勉強会『基（motoi）』。二〇一三年秋に発足、現在では各地から20余名の陶磁器・ガラス・木漆作家が参加し、ほぼ月一回程の会合を重ねるなどして器に関する講義、体験、展示発表（活動報告）等の活動を行っている。

「東日本大震災後、やきもの業界も大きく揺れ動きました。従来の社会のあり方や価値観に疑問を感じたことをきっかけに、ものづくりの根本も含め、日頃無意識に見過ごしてきたことを一から見つめ直そうと、身近なつくり手さんたちに声をかけたことから始まっていきました」。（宮本茂利さん）

つくり手が基本的な器の知識や歴史を知らないことには、つかい手に本来のコンセプトを伝えることはできない。数人の集いの場から、実際に料理屋を貸切るなどして、実践的な勉強会を開くようになっていった。

たとえば、家庭の料理は器に"入れる"、懐石や割烹では"盛る"。その違いを知ることで、器の形状や用途の意味を理解し、自分のものづくりに活かすことができる。現在までに、和食文化の粋が凝縮された〈向付〉や〈酒器〉などをテーマに集中的に学び、東京や瀬戸市内でその成果発表としての展覧会も企画・開催してきた。

「若手の自主性を尊重し、つくり手側のノウハウの継承を視野に入れつつ、つかい手側の食文化への意識も高めていけたらと思います」。

セトリエさんと体験しよ！　第八回 たたら

窯垣の小径からさらに丘を登ったところに、自然に囲まれた"瀬戸の奥座敷"とも言える『五山楽窯房』があります。ここには薪窯もあり、閑静な風情の中さまざまな陶芸体験ができます。

陶芸初心者でも楽しめる「たたら」。粘土の左右に同数のたたら板を積んで挟み、一枚づつ針金を引いてスライスしたものを使います。はがした一枚を好きな大きさ・形にカット。指先でつまんだり、型にかぶせて形をつくります。竹串やヘラを使って楕目や彫文をつけたり、庭の木の葉や貝殻を押しつけても楽しい模様に。天日干しで乾燥・素焼き、後日絵付けもできます。

針金にテンションを掛け、均等に引くのが難しい。

角か丸かは自由、好きな形にカット。皿はもちろん筒に巻き付けて湯呑み・花入れもつくることができる。

陶芸家・加藤益浩さんの作品をお手本に、竹筆で瀬戸らしい風景に挑戦！

五山 楽窯房

愛知県瀬戸市仲洞町80　TEL：0561-82-2022　Ⓟ10台

- 営業時間：10:00～16:00（作陶受付は13:30まで）
  教 室 日：月・火 休
- 陶芸体験（材料・焼成費込／税別）
  手びねり・たたら／染付・絵付け体験 … 各4,000円　ろくろ体験 …4,500円
- 陶芸フルコース（チケット制）・苔玉／陶玉作り体験コースもあります。

セトリエ information

セトリエ　Click♪

最新号～バックナンバーまで

保存版『セトリエ』はHPで！

瀬戸焼振興協会ホームページでは、『セトリエ』の各号全ページをPDFで閲覧・ダウンロードできます。プリントしてぜひ保存版に。

瀬戸焼振興協会 Seto-Yaki Shinkokyokai　www.setoyakishinkokyokai.jp

瀬戸焼の最新情報をチェック！

セトリエ公式 Facebookページ

誌面に掲載しきれないトピックスや、各展覧会・イベント、「瀬戸焼」に関する最新情報を随時更新中。下記ＵＲＬもしくは「セトリエ」でインターネット検索してご覧ください。皆さまからのコメントもお待ちしています。

セトリエ　公式FBページ　www.facebook.com/setolier

about

セトリエ

①瀬戸＋アトリエ＝瀬戸のまち全体がやきもの文化を生み出すアトリエという意味。
②瀬戸焼の魅力を紹介するフリーペーパー。つくり手とつかい手をゆるやかに結ぶ新しい世界を提案・発信。

愛知県 瀬戸市

－セトヤキ・ギフトで贈り愛－

瀬戸の多彩なやきものの中から、プロの目で選んだイチオシをご紹介。

世界で一つのオリジナル

「名前入り子ども食器」

「いっちん盛り」の立体的イラストがかわいい！飲み口に2つの凹みをつけ、目印に。〈写真下〉〈ママの声から生まれた「マナーが身につく名前入り子ども食器」〉

自分で食べられるようになるのって、
子どもにとっても、うれしいこと。
おいしく楽しく食べられるよう
持ち手や飲み口に凹凸をつけたり、
軽くて持ちやすく、転がりにくいなど
こまやかな工夫がたくさん。
カラフルな絵と自分の名前が
いっしょに並んでいるところも、
気に入って使ってもらえたらいいな。

ちくどうえん
竹堂園

瀬戸市にて創業92年、オリジナル商品のほか小ロット・多品種のＯＥＭ生産等幅広いアイテムを製造・販売。本社にはギャラリーショップも併設。「名前入り子ども食器」をはじめ、ブライダル等の各種ギフトセット、オーダーメイド等はオンラインショップでも人気です。

愛知県瀬戸市品野町1-101　TEL：0561-42-0322　Mail：chikudouen@tohki.co.jp　HP：http://www.tohki.co.jp